２日目、朝祷会においては梁昌熙長老が干証があった。朝食後は、林英宰長老司会で、「長老のあり方」、「年金問題」、「財政問題」、「女性長老推進、牧師長老１対１制度」、「総会の存在意義」、等のテーマを挙げ議論が行われた。

まず、始めに総幹事洪性完牧師から、神戸東部教会の総会脱退に関する経過説明、東日本大震災の総会内被害と救援活動について説明があった。そして全三郎長老から総会年金問題、金日煥長老からは総会財政の現状について、林芳子長老は女性長老推進について、牟大盛長老が憲法委員会見解文について、各々報告と説明をした。その後５つのグループに分かれて話し合った。

午後の全体討論では、各分団の発表後、議論が行われた。閉会礼拝は、会計全三郎長老の司会により、信徒委員長金必順牧師が「どん底の同伴者」と題してメッセージをした。今年は、長老会単独の研修会であり、総会の存在意義が問われるさまざまな事案・課題に対して、実質的に話し合い、思いを共有したいと考えから、２日目もぎりぎりまでスケジュールを組んだ。長時間の討論にも熱心に意見交換、総会復興にかける長老たちの熱意があふれた。

今回初めての長老も多く、総会における現状認識をたがいに共有しあったことに、今後の展望をみる。特に神戸東部教会の脱退について、憲法委員会からの見解、勧告などにたいして、懲戒よりは、愛をもって温かく処してほしいとの意見がだされた。

また、日本人長老将立が増えていることや現役夫婦長老の誕生など、新しい動きもみられた。開会礼拝の席上献金（58、300円）は、東日本大震災復興のために捧げられ、会長李光世長老から総幹事洪性完牧師へ伝達された。

（報告：林芳子書記）

＜全国青年協議会＞夏期修養会
「現場の中でキリストと出会う」

８月10日（水）～13日（土）まで、滋賀県長浜市の長浜サイクリングセンターにおいて、「「現場」の中でキリストと出会う」という主題と、「「行い」からにじみでる信仰求めて」という副題をもって、全国から約40人の青年が集まり、全国青年夏期修養会が行われた。開会礼拝は大阪教会の朴時永副牧師が行った。その後、金耿昊代表（横須賀教会）が全協の中での仲間とのつながり、３月11日に起こった東日本大震災の中での人々のつながり、これから必要になって行くつながりについて真剣に発題し、多くの青年が耳を傾けた。

２日目は、松戸市同稔台教会の「浜岡原発を考える静岡ネットワーク」の役員であり、「原子力行政を問い直す宗教者の会」事務局の内藤新吾牧師の主題講演があった。夕食後は、崔恵理（東京教会）と金在源（川崎教会）の司会で、８.15礼拝、３.11特別礼拝、ボランティア報告があった。

３日目は、朴正薫（大阪教会）、朱美恵（東京教会）の司会で、聖書プログラムを行った。そこでは、ヨブ記より信仰について考えた後、『祈り』について、同年代別に集まり、いくつかのグループを作り、意見を出し合った後、発表を行った。その後は、３日間で各分団が考えたり語ったりしたことを一つにまとめて発表するスタンツ発表会があり、４つの分団からユーモアに溢れる、また考えさせられる発表が数多くあり、初参加の青年たちも個性を発揮するなど、とてもよい時間となった。最終日は、各分団が今年の夏修で感じたことをまとめ、発表をした後、朴栄子牧師（豊中復興教会）が閉会礼拝を行った。今年は、参加人数が少なかった分、例年以上に個々人の関係性が深まった夏季修養会であった。（報告：金在源）

在日同胞文化の創造と多文化共生社会を目指して2006年4月25日、創立100周年を迎えました。

YMCA

◆東京で一番安く便利な宿泊研修施設（ホテル）：フロントは日・韓・英語を対応、24時間サービス。10名様から2020名様の会議及び宿泊研修(50名様)も可能。
◆スペースワイホール：220席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに最適
◆韓国文化（チャング・カヤグム・舞踊）教室・韓国語講座・各種こどもクラス
◆YMCAアジア語学院（日本語学校）　※会員及び教職者割引有

（税込み）	平　日	休・休前日
シングル	¥6,300	¥5,040
ツイン	¥11,550	¥9,240
トリプル	¥14,490	¥11,592
朝食¥200　カルビクッパ、コムタン、ユッケジャン、韓定食、洋食（全メニューコーヒー付き）		

在日本韓国YMCA　http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
東京韓国ＹＭＣＡアジア青少年センター〒101-0064　東京都千代田区猿楽町2-5-5　TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
関西韓国ＹＭＣＡアジア青少年センター〒537-0025　大阪市東成区中道3-14-15　TEL 06-6981-0781 FAX 06-6981-0782

創世記連続講解（７）

尹宗銀 牧師
（横浜教会名誉牧師）

創世記 12 章

創世記 12 章の総主題は、『選民の祖先アブラハムの召命』であるが、それを分解すると３項目にわけられる。

① 1 - 3 節：神の命令と将来の約束。
② 4 - 9 節:ハラン〔Haran〕を出発してカナン〔Canaan〕に至る。
③ 10-20 節：エジプトに下って行って失敗する。

本章から創世記の第二部に入る。１章から 11 章までは天地創造と万民の歴史であり、12 章 -50 章までは、選民イスラエルの民族史である。カルデアのウル〔Ur of the Chaldees〕は従来から月神を崇拝する中心地であった。テラ〔Terah〕も又偶像崇拝者として偶像を作って商売までした一アラム〔Syrian〕人である（ヨシュ 24: 2; 申 26: 5）。

神は、彼の息子アブラムを選んで特殊教育と訓練を授けて選民とするために、メソポタミア〔Mesopotamia〕から離れて（使 7: 2 - 4）、国境ハラン〔Haran〕に行かせた。そこに滞在している間に、父テラは死んだ。神は、アブラムに世に属するあらゆるものを捨てて信仰と服従をもって新しく出発するように命じられた。

アブラムは、命令に服従して約束の地カナン〔Canaan〕に向かって出発した。召命と分離は聖書的真理の順序であると同時に、アブラムの生涯において鍵であると言える。彼は指示の順序に従って、生まれ故郷と父の家を離れ、甥ロト〔Lot〕を離れ、ハガルとイシュマエルを離れ、息子イサクまで神に献げた。彼はただ神の御心に従って一路邁進した。

しかし彼は､信仰の路線から脱線する時もあった。その時、ちょうどカナンに飢饉が襲って来た。これは、彼にとって一大信仰の試練であると言える。物質的な欠乏を痛感した彼は、惜しくも約束の地を離れてエジプトに下りて行った。これが信仰路線からの脱線である。信仰を失った彼は、悩みと恐怖の中で虚偽に陥ってしまった。

この時に、サライ〔Sarai〕の貞操は危なくなって来た。しかし、神は摂理の中で万民の母サライを保護した。事件のためにアブラムは不信仰の異邦人に叱られた。信仰者が不信仰者に叱られることは恥ずべきことである。

創世記 13 章

創世記 13 章の総主題は、『アブラムとロトとの分離』であるが、それを分解すると４項目に分けられる。

① 1 - 4 節：アブラムがエジプトから帰ってくる。
② 5 -13 節：アブラムとロトが互いに分離する。
③ 14-17 節：神がアブラムを祝福する。
④ 18 節：アブラムがヘブロン〔Hebron〕に移住する。

本章は､アブラムとロトが分離される記事である。ロトは、ハラン〔Haran〕の息子でアブラムの甥である。叔父に連れられて、カナンに来て同居していた。しかし、信仰上では相反していた。ただ叔父の信仰に従って追従的な信仰に過ぎなかったが、自発的な信仰には至らなかった。

叔父と甥との間に分離された表面上の動機は物質上の関係であるが、裡面上の理由は神の摂理の働きである。神は一方、ロトの独立的な信仰を要求すると同時に、他方アブラムの信仰の自由を保障しようとされた。しかし、ロトに対しては人生前途の分岐であり、信仰生活の危機とも言える。アブラムはこのような危機からまぬかれたが、ロトは欲望に誘われて選択に失敗してしまった。

アブラムはあらゆる方面に優先権をもっていたが、謙譲の美徳をもってロトに選択の権利を譲歩した｡これに対して、ロトは一言遠慮もなく自己本位で農牧の最要地であるソドム〔Sodom〕を選択してしまった。彼の欲望の眼前には、ソドムがヤ - ウェの園のように、エジプトの国のようによく潤っていた。

彼は、ソドムの罪悪と自分の霊魂のような問題は寸毫もなく目の欲望に誘われて、罪悪の町ソドムを選んだのが不幸の始まりであった。信仰の叔父を離れたのが、もっと大きい不幸であると言える。

14 節以下は、ロトとアブラムが分離された後、神の約束と祝福がアブラムに与えられた。不信仰と混合のある所に神の祝福を期待することはできない。親戚と完全に離れなかったアブラムの飲むべき苦杯は苦くて痛ましいものであった。

東日本大震災　KCCJ 募金口座案内

・銀行（BANK）：三菱 UFJ 銀行
（THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, Ltd）
・支店（BRANCH）：高田馬場支店（TAKADANO-BABA）
・種類（SWIFT）：普通預金（BOTKJPJT）
・口座（A/C）：053-1615275
・名義：在日大韓基督教会総会

不動産管理
アルカンシェル名駅
李　光　世
（名古屋教会 長老）
〒 453-0013　名古屋市中村区亀島 2-2-27
電話・FAX 052-451-7713　携帯 090-3578-7571
E-mail:kwangse.lee@nifty.com

豊かな味はこころまで豊かにする。
妻家房 SAIKABO
代表取締役 呉 永錫
（東京希望キリスト教会 長老）
四谷本店
東京都新宿区四谷3-10-25
Tel. 03-3354-0100
Fax.03-3353-6200

〈관동지방회〉 미토전도소

재해 중에도 교회를 구입하여 예배를 재개

관동지방회의 동북지방애 위치하고 있는 미토전도소는 지난 3월 11일 동일본 대지진으로 인하여 임대하여 사용하던 교회 건물이 파손되고, 후쿠시마원자력발전소 사고로 인한 방사능 유출이 계속되고 있는 가운데 많은 교인들이 본국과 다른 지방으로 흩어지는 어려운 상황을 맞이하였었다.

그러나 그런 가운데에서도 하나님의 은혜와 남아 있는 교인들과 여러 곳에서의 기도와 후원 등으로 교회 건물을 구입하여 예배를 재개하게 되었다(新住所：茨城県水戸市大工町２-6－27).

그리고 현재 일부 교인들을 제외하고는 다시 교회로 돌아온 교인들과 함께 구입한 건물을 수리하면서 은행 융자를 하루라도 빨리 상환하기 위하여 담임목사와 교인들은 기도의 힘을 결집함과 동시에 김치를 만들어 판매하는 등의 현실적인 노력에도 진력하고 있다.

금번에 구입한 교회 건물은 철근 골조 콘크리트 3층이며, 면적은 1층과 2층이 각각 88.92㎡, 3층이 88.64㎡로 총면적은 264.46㎡이다. 건물 구입가격은 2천 6백 50만엔이며, 실내 수리비 등으로 350만엔이 추가되어 총 3천만엔이 소요되었다.

이에 한재문목사는 건축비 조달방법과 계획에 대하여 설명하기를 교인들의 건축헌금과 일반재정에서 700만엔, 여성회원들의 김치판매 수익금 200만엔, 은행융자 1,500만엔(15년 상환)이라면서 전국 교회에서의 기도와 헌금 협력을 부탁해 달라고 관동지방회 임직원회에서 요청하였다.

지금은 관동지방회로부터의 피재 교회를 위한 지원금을 포함하여 600만엔의 목표를 세우고 교인들은 기도 중에 있다. 이러한 어려움 가운데에서도 새로운 교인들이 많이 모이기 시작하여 11월 3일(목)에는 전도소에서 교회로 승격하게 되는 기쁨을 누리게 된다. 피재지 지역에 있는 교회이지만 하루라도 빨리 교인들이 회복하고 교회 구입이 안정되어져서 지역 선교를 위하여 최선을 다할 수 있기를 소망한다.(보고：편집부)

(예배당 전경)

＜関西女性会＞大阪教会にて

み言葉と讃美のフェスティバル

9月11日（主日）関西地方会大阪教会では、女性連合会主催の第21回「み言葉と讃美のフェスティバル」が開催された。今年は11教会で159名の女性を含む267名の教会員が集い、年に一度挙って神に栄光を捧げることを楽しんだ。

第1部礼拝では、金英子副会長の司会で、趙永哲牧師（関西地方会会長）が「み言葉と讃美」（Ⅱテモテ４：４，５）という題で説教をした。第２部フェスティバルは、姜定子副書記による司会のもとで、崔金順会長の挨拶と審査委員５名の紹介で始まった。今年は、各教会が練習に励んだ成果が例年以上に美しく花開き、また舞踊による聖劇もすばらしく大いに盛り上がった。

さらに、特別参加の奈良教会青年たちによる「讃美と律動」、徐聖瓊氏による弾き語りと、どちらも讃美する喜びにあふれて、その若い熱気が会場を包んだ。また、委員有志の各地方言葉での韓国語聖書朗読は楽しく和やかな好評を博した。最後には審査結果が発表された。フェスティバル賞は大阪北部教会、讃美賞は大阪教会、みことば賞は京都教会がそれぞれ受賞した。参加者たちは、神さまには栄光と讃美を捧げ、隣人とはよき交わりができて喜びに満ちたフェスティバルであったと称えた。(報告：姜定子)

福音新聞原稿募集

福音新聞は、在日大韓基督教会の全信徒の祈りと協力の手によって発行される、皆さまの新聞です。この福音新聞を通して、全国的な信仰的交わりと宣教の場として用いられて行くことを願っております。「主にあって一つ」である、皆さまの自由投稿を心よりお待ちしております。

・内容：各報告、証し、説教、自由投稿等
・対象：在日大韓基督教会の全信徒
・言語：韓・日語（得意な言語）
・写真：１－３枚程度
・期間：年中（締め切り：毎月19日）
　＊添付ファイルは、word文書でお願いします。
・送信先：事務局　fukuinshinbun@kccj.jp
　　担当者　shinacho2003@daum.net

福音新聞社　編集部

昭和38年9月20日第3種郵便物許可（毎月一日発行）

福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100～110周年標語
감사의 백년, 소망의 백년
感謝の百年、希望の百年
（데살로니가전서 5:18）

10月1日（土）2011年　第701号
発行所　福音新聞社
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
電話03（3202）5398
発行人/崔栄信・編集人/洪性完
fukuinshinbun@kccj.jp
info@kccj.jp

＜全国教会女性連合会＞定期総会
金恵善牧師が再び講師に

6月29日（水）～30日（木）、神戸シーパル須磨に於いて全国女性会定期大会（主題“つなげよう！命と祈りの絆”―女性の賜物を生かし、豊かな歩みを！―）が開催された。今回は大会と併せて女性会指導者研修プログラムを組み合わせた。講師には、前回の聖書セミナー以来、多数の要望に応えて金恵善牧師（ソウル・スクラントン女性指導者センター事務総長）をもう一度お迎えした。

２年に一度の大会は、報告・役員改選と共に、今回中心となった議案は機構改革であった。それに伴う「憲章」の見直しなど、多くの課題に取り組んできた。しかし、結果的に、この案件は否決となり、継続課題として次期へと持ち越された。また、新年度に向けて新たなメンバーが役員に加わった。

新役員は、以下の通りである。会長：金貞姫（東京）、副会長：金貞子（小倉）、書記：金恵玉（川崎）、副書記：宋福姫（名古屋）、会計：許清子（京都）、副会計：沈貞児（神戸）、宣教局：金錦順（布施）、社会局：朴栄子（豊中第一復興）、教育局：崔美恵子（武庫川）、青年局：李永愛（京都南部）、財政局：金英淑（大阪）、後援局：金純子（名古屋）、会計監査：姜順明（名古屋）、文仙伊（大阪）

女性会指導者研修プログラムでは、「婦人よ、病気は治った」という題目で、ルカによる福音書13:10－17を通して金恵善牧師の講演があった。18年間腰が曲がったままの女性を具体的に意識するというアクティビティーをとおして、その女性の置かれた状況を実際に体験しながら、相手の痛みを想像することで、自分自身をふり返る作業をした。

講演Ⅱでは、「あなたは世の光である」（マタイ5:14－16）とうい題で、自分の光を完全に光らせているかという問いかけを通して、隣にいる人と考えや思いを分かち合いつつ、どこに問題があるのかを探し出し、解決するためには、まず自分自身を知ることが大切であるということを訴えた。

金恵善牧師の講演は、ペンを持って記録に縛られる従来の講演とは違い、会場にいる者たちが全員立ち上がり、多くの人たちと交わりを持ちながら、思いを共有していくという、独特の手法である。頭で考えるより、体験を通して聖書の御言葉を身近に捉え、考えていく。会場はあっという間に熱気に溢れ、長く暗いトンネルの出口を見つけ出したかのごとく、それぞれの表情は明るくなり、喜びで満たされ、充足感と達成感を味わうのである。その結果、参加者たちは、「ひとりで困難を抱えるのではなく、外に出て（礼拝する）隣人（兄弟姉妹）と交わること、私たちは繋がっていくことが大切である！」ということを実感したのである。

開会礼拝では、金必順牧師によるメッセージと聖餐式が行われた。そして西部地方会連合聖歌隊（シオン聖歌隊）による特別讃美があった。また、当日は水曜日ということもあり、夜には水曜祈祷会をもった。女性会が支援している奨学生の咸同奎神学生より、ヨナ書4：9－11を通して証しがあり、関わりを通して見えてくるつながりを実感することができた。翌日の早天礼拝では、許清子（会計）の証しがあり、閉会礼拝では金漢羅牧師より「あなたがたは世の光である」という題目でメッセージが与えられた。

全国から多くの女性たちが一同に集い、それぞれのタラントを十分に発揮し、活かし合う、研修会であった。研修参加者（子どもを含め）は、約112名であった。一泊二日というハードなスケジュールであったにもかかわらず、疲れを感じることなく、実り豊かで感謝に溢れる学びとなった。全国女性会の活躍を期待したい。

（報告者：金恵玉書記）

2011＜全国長老研修会＞
長老のあり方―総会の未来をひらく

2011年度長老研修会が、7月17～18日、ホテルクライトン新大阪にて、「長老のあり方―総会の未来をひらく」の主題のもとで、長老・女性会の約60名が参加して開催された。1日目の開会礼拝（17時）は、李光世会長の司会のもとで始まり、前総会長鄭然元牧師が「魂創通をそなえた長老」と題で説教した。

鄭牧師は、総会の現状に鑑み、今日要求される長老像についてメッセージを送った。夕食後は、金永煥長老の司会の下、金広照長老が「長老のあり方―総会のミッション和解と共生」、金幸子長老が「長老のあり方」、金秀男長老は「人が神にならないために」とい題をもって、それぞれ発題をした。